

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 7 月 7 日 (2005.7.7)

【公開番号】特開 2003-172819 (P2003-172819A)  
 【公開日】平成 15 年 6 月 20 日 (2003.6.20)  
 【出願番号】特願 2001-371133 (P2001-371133)  
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 2 B 5/30  
 G 0 2 F 1/1335  
 G 0 3 B 21/00  
 G 0 3 B 33/12

【F I】

G 0 2 B 5/30  
 G 0 2 F 1/1335 5 1 0  
 G 0 3 B 21/00 E  
 G 0 3 B 33/12

【手続補正書】  
 【提出日】平成 16 年 10 月 29 日 (2004.10.29)  
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

少なくとも 2 枚の直線偏光板を、それぞれの吸収軸が略一致するように、透明基板に積層してなることを特徴とする偏光変換素子。

【請求項 2】

透明基板の片方の面に少なくとも 2 枚の直線偏光板が積層されている請求項 1 記載の偏光変換素子。

【請求項 3】

透明基板の両面にそれぞれ少なくとも 1 枚の直線偏光板が積層されている請求項 1 記載の偏光変換素子。

【請求項 4】

直線偏光板は、その吸収軸と平行に入射する波長 440 nm の光の透過率が 0.05 ~ 30 % の範囲にある請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の偏光変換素子。

【請求項 5】

直線偏光板は、その吸収軸と平行に入射する波長 550 nm の光の透過率が 0.05 ~ 30 % の範囲にある請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の偏光変換素子。

【請求項 6】

直線偏光板は、その吸収軸と平行に入射する波長 610 nm の光の透過率が 0.05 ~ 30 % の範囲にある請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の偏光変換素子。

【請求項 7】

直線偏光板は、空気と触れる最外面に反射防止層を有する請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の偏光変換素子。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の偏光変換素子が光路中に配置されていることを特徴とする投射型液晶表示装置。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

【課題を解決するための手段】

すなわち本発明は、少なくとも 2 枚の直線偏光板を、それぞれの吸収軸が略一致するように、透明基板に積層してなる偏光変換素子を提供するものである。また、本発明によれば、この偏光変換素子が光路中に配置されている投射型液晶表示装置も提供される。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

【発明の実施の形態】

本発明では、少なくとも 2 枚の直線偏光板を積層して、偏光変換素子とする。これら少なくとも 2 枚の直線偏光板は、透明基板に積層されるが、この際、透明基板の片方の面に少なくとも 2 枚の直線偏光板を積層することもできるし、透明基板の両面に各々少なくとも 1 枚の直線偏光板を積層することもできる。前者の形態を図 3 ( a ) に、後者の形態を図 3 ( b ) にそれぞれ示す。